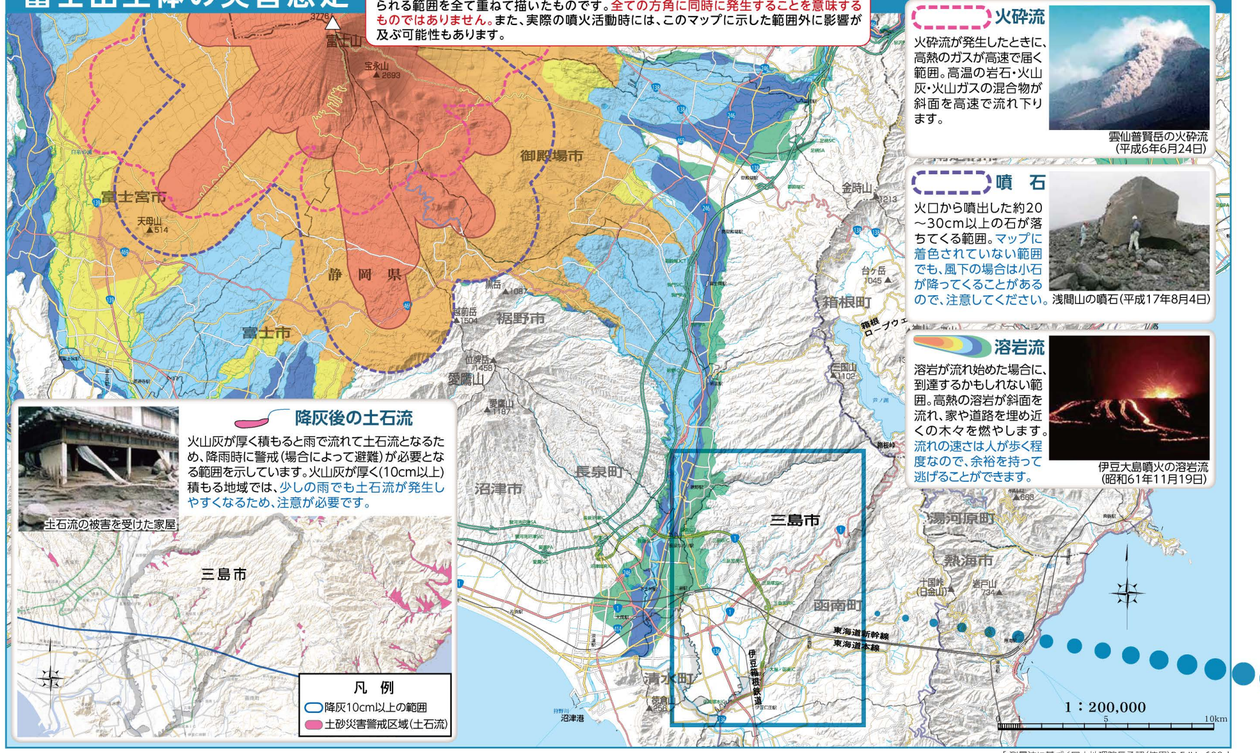
三島市富士山火山防災マップ

令和6年3月作成

令和3年3月に国や静岡県、山梨県、神奈川県の自治体、火山専門家等から構成される富士山火山防災対策協議会が新たな富士山ハザードマップを公表したことを受け、三島市用の火山防災マップを作成しました。
皆さんの居住場所にどのような危険が及ぶのか確認し、日頃の備えや緊急時の行動に役立ててください。

富士山全体の災害想定

この図は仮に富士山が噴火した場合に、溶岩流、噴石、火砕流などの影響が及ぶと考えられる範囲を全て重ねて描いたものです。**全ての方角に同時に発生することを意味するものではありません。**また、実際の噴火活動時には、このマップに示した範囲外に影響が及ぶ可能性もあります。



火砕流

火砕流が発生したときに、高熱のガスが高速で届く範囲。高温の岩石・火山灰・火山ガスの混合物が斜面を高速で流れ下ります。

雲仙普賢岳の火砕流（平成6年6月24日）

噴　石

火口から噴出した約20～30cm以上の石が落ちてくる範囲。マップに着色されていない範囲でも、風下の場合は小石が降ってくることがあるので、注意してください。

浅間山の噴石（平成17年8月4日）

溶岩流

溶岩が流れ始めた場合に、到達するかもしれない範囲。高熱の溶岩が斜面を流れ、家や道路を埋め近くの木々を燃やします。流れの速さは人が歩く程度なので、余裕を持って逃げることができます。

伊豆大島噴火の溶岩流（昭和61年11月19日）

降灰後の土石流

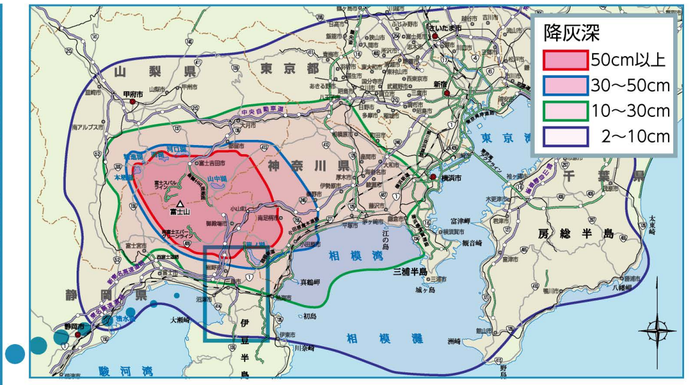
土石流の被害を受けた家屋

火山灰が厚く積もると雨で流れて土石流となるため、降雨時に警戒（場合によって避難）が必要となる範囲を示しています。火山灰が厚く（10cm以上）積もる地域では、少しの雨でも土石流が発生しやすくなるため、注意が必要です。

「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 5JHs 680」

降灰の可能性マップ

細かく砕けたマグマが空高く吹き上げられ、風に乗って遠くまで運ばれます。火口の近くでは厚く積もり、遠くなるにしたがって徐々に薄くなります。外出を控え、やむを得ず車の運転をする場合は注意しましょう。



火山灰や軽石を出す大規模な噴火の場合、広い地域に火山灰が降ります

季節によって風向が変わるため、火山灰の到達範囲は変わります。
降灰の可能性マップはすべての季節を重ねて描いているため、実際の降灰範囲は異なる場合があります。

降灰があったら…

- 降灰からの避難は、火砕流や溶岩流、建物の倒壊等による命の危険がない場合、自宅や近隣の堅牢な建物内での屋内退避が原則です。
- 灰を吸わないようにするためや目を保護するために、マスクやゴーグルを着用しましょう。
- 風下の場合は火山灰だけでなく小石が降ってくることがあるので、やむを得ず外に出る時はヘルメットをかぶり頭部を保護しましょう。
- 家は窓を閉めて建物を密閉します。木造家屋では屋根に30cm以上の火山灰が積もると、屋根が抜けたり建物が壊れたりすることがあります。特に雨が降ると火山灰が重くなるので注意しましょう。
- 車で走ると、灰を巻き上げて視界が悪くなったりスリップしやすくなります。また、ガラスが傷つき前が見えなくなるため、火山灰が乾いているときは、ワイパーを動かしてはいけません。泥や雨のため、やむを得ずワイパーを使う場合は、ウォッシャー液をたっぷり使います。高速道路は、通行不能となる可能性があります。JRなど鉄道は、少量の降灰でも運行が困難になる可能性があります。

三宅島の降灰（平成12年7月16日）

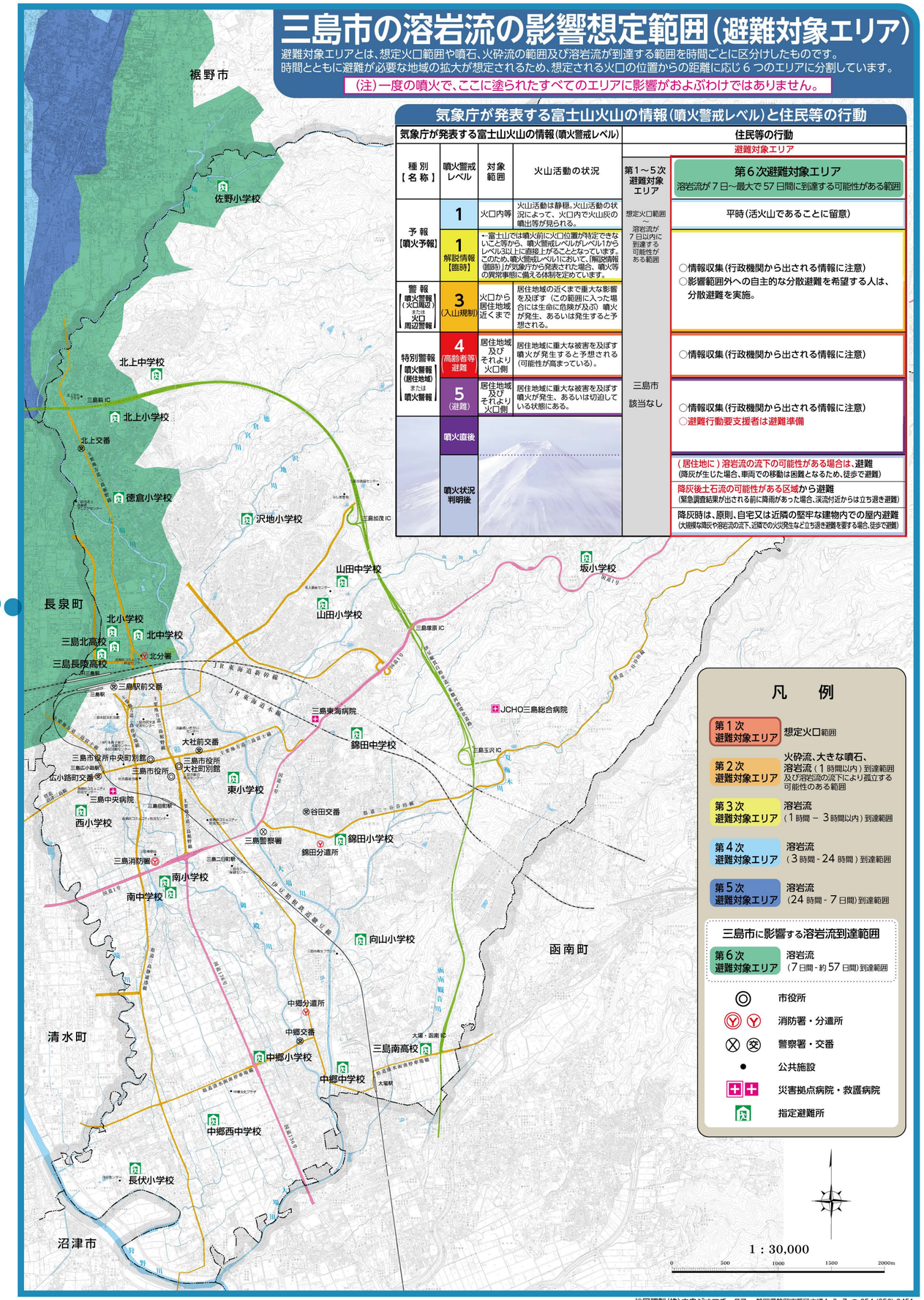
三島市の溶岩流の影響想定範囲（避難対象エリア）

避難対象エリアとは、想定火口範囲や噴石、火砕流の範囲及び溶岩流が到達する範囲を時間ごとに区分けしたものです。
時間とともに避難が必要な地域の拡大が想定されるため、想定される火口の位置からの距離に応じ６つのエリアに分割しています。

（注）一度の噴火で、ここに塗られたすべてのエリアに影響がおよぶわけではありません。

気象庁が発表する富士山火山の情報（噴火警戒レベル）と住民等の行動

気象庁が発表する富士山火山の情報（噴火警戒レベル）				住民等の行動	
種別【名称】	噴火警戒レベル	対象範囲	火山活動の状況	避難対象エリア 第1～5次避難対象エリア	第６次避難対象エリア 溶岩流が７日～最大で57日間に到達する可能性がある範囲
予報【噴火予報】	1	火口内等	火山活動は静穏。火山活動の状況によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる。	想定火口範囲	平時（活火山であることに留意）
	1 解説情報【臨時】		・富士山では噴火前に火口位置が特定できないこと等から、噴火警戒レベルがレベル1からレベル3以上に直接上がることとなっています。このため、噴火警戒レベル1において、【解説情報（臨時）】が気象庁から発表された場合、噴火等の異常事態に備える体制を定めています。	溶岩流が７日以内に到達する可能性がある範囲	○情報収集（行政機関から出される情報に注意） ○影響範囲外への自主的な分散避難を希望する人は、分散避難を実施。
警報【噴火警報（火口周辺）または火口周辺警報】	3（入山規制）	火口から居住地域近くまで	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。		
特別警報【噴火警報（居住地域）または噴火警報】	4（高齢者等避難）	居住地域及びそれより火口側	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	三島市	○情報収集（行政機関から出される情報に注意）
	5（避難）	居住地域及びそれより火口側	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	該当なし	○情報収集（行政機関から出される情報に注意） ○避難行動要支援者は避難準備
	噴火直後				
	噴火状況判明後				（居住地に）溶岩流の流下の可能性がある場合は、避難（降灰が生じた場合、車両での移動は困難となるため、徒歩で避難） 降灰後土石流の可能性がある区域から避難（緊急調査結果が出される前に降雨があった場合、渓流付近からは立ち退き避難） 降灰時は、原則、自宅又は近隣の堅牢な建物内での屋内避難（大規模な降灰や溶岩流の流下、近隣で小火現象など立ち退き避難を要する場合、徒歩で避難）



地図調製（株）中央ジオマチックス　静岡県静岡市葵区本通4−3−7　☎ 054 (250) 0451